

学会ハイライト

第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会を終えて

(2018年10月27日, 28日, 大阪国際会議場)

川田 暁

近畿大学医学部皮膚科学教室 教授

大阪での中部支部学会

2018年10月27日, 28日の2日間, 大阪市の大阪国際会議場で第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会を開催させていただきました(図1)。

近畿大学医学部皮膚科では前教授の手塚正先生が1982年に第33回を主催され, 今回が2回目となりました。

私の専門分野として光生物学・乾癬の紫外線治療・レーザー治療があります。そのため今回の学会テーマは「皮膚科の本態に光をあてる!」としました。

特別講演

特別講演としては近畿大学医学部免疫学の宮澤正顯教授と, 名古屋市立大学医学部免疫学の山崎小百合教授に最新の免疫学について講演していただきました。皮膚科以外の分野を学ぶことができた貴重な機会でした。

シンポジウム

学会テーマに沿って「光皮膚科再び」と「紫外線治療のトピックス」というシンポジウムを行いました。また, 近年皮膚科領域では病態と治療が密接に関連している状況から, ここに「光をあてる!」ことにしました。「基礎研究の最新の話題—皮膚研究は拓く, 皮膚科の未来」[乾癬国際ワーク

ショップ 乾癬治療から医療経済を考える]「皮膚科にできるアンチエイジング」の3つのシンポジウムと, アトピー性皮膚炎・悪性黒色腫・乾癬のスポンサードシンポジウムも行いました。



図1 ポスター・プログラムの表紙。紅葉と大阪城に太陽の光が燦々と降りそそいでいる。



図2
12種類のワイン



図3 13種類のスイーツ

教育講演

教育講演としては「痒疹を考える一改訂診療ガイドラインについて」(防衛医科大学校 佐藤貴浩先生), 「掌蹠膿疱症の臨床に強くなるために」(福島県立医科大学 山本俊幸先生), 「よくわかるサルコイドーシス診療」(関西医科大学 岡本祐之先生), 「皮膚科の日常診療におけるアレルギーのピットフォール」(島根大学 千貫祐子先生), 「病理の基礎を勉強しよう！」(近畿大学 柳原茂人先生, 熊本大学 宮下梓先生)を講演いただき, いずれも臨床や専門医試験につながるものとしてどの会場も盛況でした。

スイーツと懇親会

懇親会ではピアニストの小谷朋子さんに, 心が澄やかになるような音色でクラシックの名曲を演奏していただきました。ワインはカリフォルニアのワインをセレクトしました。ワイナリーが多く

て有名なNapaとSonomaの「美味しいけれど日本ではあまり有名ではない」, ロゼ・白・赤で計12種類(図2)を用意しました。実行委員長の柳原茂人先生にソムリエ役としてプレゼンをしていただき, 参加した方々にテイスティングを楽しんでいただきました。

さらにスイーツは, コーヒーコーナーの横に13種類(図3)を用意しました。主として大阪・京都・奈良・兵庫の和洋をとりまぜたスイーツを味わっていただきました。

おわりに

一般演題も多数(口演133題, ポスター46題)寄せられ, 活発な討論がありました。2日間を通じて約1,700名に参加いただきました。また山田紀子さんをはじめとした日本皮膚科学会の学術チームの皆様, 近畿大学医学部皮膚科の医局員の方々, 多大な協賛をしていただいたOBや各メーカーの方々に深謝申し上げます。